

2014年度総会議事録

日 時：2014年5月22日（木）13時35分～15時05分
 場 所：横浜市開港記念会館講堂（神奈川県横浜市）
 出席理事：新野 宏，藤谷徳之助，岩崎俊樹，経田正幸，佐藤 薫，佐藤正樹，塩谷雅人，竹見哲也，田中 博，中島映至，中村健治，中村尚，平井雅之，廣岡俊彦，藤部文昭，三上正男，余田成男，以上17名（理事現在数19名）
 出席監事：岡本幸三，高谷康太郎，以上2名（監事現在数2名）

参加者数：個人会員の会場出席者71名，総会参加票による出席者1,823名，合計1894名。（通常会員現在総数3,355名（2014年4月9日現在））

決議の要件：社員総会の決議は，総社員の議決権の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の議決権の過半数をもって行う。（定款第17条）

議 事

1. 開会

経田理事より出席状況と決議の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に木村富士男会員（海洋研究開発機構）を選出した。

3. 理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた大会委員長を始めとする海洋研究開発機構，防衛大学校，横浜国立大学の会員，講演企画委員会の皆様にお礼申し上げます。各会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う。

最初に，大変残念な悲しいお知らせを申し上げねばならない。3月初めに里村雄彦理事が病気のためご逝去された。里村理事は，気象学会理事を長きに渡り務め，学会の運営に多大な功績を挙げられた。また，気象学の発展や後進の育成にも多大な貢献をされた。ご冥福をお祈りします。

公益社団法人後初めての役員選挙が無事終わり，また多くの総会参加票の提出もあり，本日2回目の総会を迎えることが出来た。今回は参加票の様式の問題もあり，無効票が例年よりやや多かった。次回からは，記入に誤りが生じない工夫を行いたい。

公益社団法人化を契機に，表彰制度を変更し，7つの賞を設けた。本日，故岸保勘三郎名誉会員のご

遺族からの寄付をもとに創設した岸保賞の第1回目の表彰を行う。副賞のメダルの図案は会員に公募したが，最終的には推薦委員会の提案である初期の数値予報結果のラインプリンター出力による等高度線をデザイン化したものを採用した。また，本総会では4名の会員を名誉会員に推薦させていただく。

日本学術会議では，本年3月に大型研究計画に関するマスタープラン2014を制定した。気象学会の提案した「気候変動予測連携研究拠点」と「航空機観測による大気科学・気候システム研究の推進」の2件は，マスタープランには採用されたものの，重点課題には採用されなかった。本年秋から，日本学術会議の地球惑星科学委員会はマスタープラン2017に向けたヒアリングを行う予定である。今回は重点課題に選ばれるようしっかりと準備を進めたい。また，学術委員会に尽力いただいた「日本の気象学の現状と展望」については，会員からの意見を反映した改訂も終え，最終版を「天気」3月号に掲載した。今後も定期的に将来構想を見直していくことが必要と考えている。

昨年の労働契約法の改正は，大学等研究機関や若手研究者の雇用に影響が大きいことから，昨年12月に「研究開発力強化法」の改正が行われた。しかしながら，ポストドク問題が解決するわけではなく，また育児休業や介護休業等をとる研究者に不平等が生ずることになり，男女共同参画の観点からも見過ごせない問題である。人材育成・男女共同参画委員会で準備した，これらの問題の解決にむけた要請文書を近々確定し，ホームページ等を通じた公開を検討している。

日中韓気象学会共催の国際会議に向けて，第6回会議の際に3つの気象学会代表者が集まって議論し，この夏のAOGS札幌大会時にbusiness meetingを行うこととした。第7回は，来年日本で開催する予定である。会議を特に関心の高いトピックに限定することにより，開催国に出来るだけ負担をかけない形での開催を予定している。

この秋，会員情報管理システムの更新を契機に，会員への情報提供や会員サービスを電子メールベースで行う環境にした。現在，電子情報委員会にて学会ホームページ上の会員アカウントを通じた会員

サービスの検討を進めている。電子メールの登録を終えていない会員が周囲にいれば、速やかな登録をお勧めいただきたい。

東京大学の近藤 豊会員が平成25年度東レ科学技術賞を受賞された。推薦に当たられた皆様に感謝申し上げます。

最後に、本大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

日本気象学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

阿部彩子（東京大学大気海洋研究所）

氷期・間氷期サイクルの機構解明に関する研究

鈴木健太郎（NASA ジェット推進研究所・カリフォルニア工科大学）

新手法を用いた低層雲微物理特性の研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長の中村健治理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

時岡達志（海洋研究開発機構）

地球温暖化モデリングによる地球温暖化予測への貢献

中島映至（東京大学大気海洋研究所）

大気放射学とそれに関わる気候・環境科学の推進

(3) 岸保賞

岸保賞候補者推薦委員会委員長の岩崎理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

山岸米二郎（NPO 法人気象環境教育センター）

日本域微格子モデル（VFM）をはじめとする数値天気予報の高度化に関する功績

(4) 気象集誌論文賞及び SOLA 論文賞

気象集誌編集委員会委員長の佐藤正樹理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Yoshinori SHOJI

“Retrieval of Water Vapor Inhomogeneity Using the Japanese Nationwide GPS Array and its Potential for Prediction of Convective Precipitation”

Hiroki YAMAMOTO, Shigeo YODEN

“Theoretical Estimation of the Superrotation Strength in an Idealized Quasi-Axisymmetric Model of Planetary Atmospheres”

Masato MORI, Masahide KIMOTO, Masayoshi ISHII, Satoru YOKOI, Takashi MOCHIZUKI, Yoshimitsu CHIKAMOTO, Masahiro WATANABE, Toru NOZAWA, Hiroaki TATEBE, Takashi T. SAKAMOTO, Yoshiki KOMURO, Yukiko IMADA, Hiroshi KOYAMA

“Hindcast Prediction and Near-Future Projection of Tropical Cyclone Activity over the Western North Pacific Using CMIP5 Near-Term Experiments with MIROC”

SOLA 編集委員会委員長の竹見理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Qoosaku Moteki and Atsuyoshi Manda

“Seasonal Migration of the Baiu Frontal Zone over the East China Sea: Sea Surface Temperature Effect”

5. 2014年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2013年度事業報告

経田理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表彰、会員の異動状況、会議等の開催、会員情報管理システムの更新等の事業報告があった。

議案2：2013年度決算報告

平井理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。基本財産を増額して運用益を岸保賞の賞金に充てること、日中韓共催国際会議開催経費及び事務局移転経費の将来の支出を勘案した特定資産の積み立ての状況などが説明された。

議案3：2013年度監査報告

岡本監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と会員数の動向等に関する監査結果が報告さ

れた。

2013年度の活動について、大会・研究会の開催と機関誌等の順調な刊行、教育・啓発活動の各地での活発な活動と部外機関との連携や情報発信の強化、報告書「日本の気象学の現状と展望」のとりまとめについて高い評価を受けた。一方、会員数の減少傾向に改善が見られないことから、長期的視野に立った抜本的な対策の必要性が指摘された。

議案4：第38期役員を選任について

新野理事長から、第38期役員候補者選挙における当選者並びに理事会からの推薦による理事選任候補者について説明があった。候補者毎の議案は次の通り。

・役員候補者選挙において当選した理事選任候補者

議案 4-1 岩崎 俊樹

議案 4-2 余田 成男

議案 4-3 中村 健治

議案 4-4 近藤 豊

議案 4-5 三上 正男

議案 4-6 中島 映至

議案 4-7 佐藤 正樹

議案 4-8 佐藤 薫

議案 4-9 塩谷 雅人

議案 4-10 廣岡 俊彦

議案 4-11 中村 尚

議案 4-12 田中 博

議案 4-13 新野 宏

議案 4-14 藤部 文昭

議案 4-15 長谷部 文雄

議案 4-16 竹見 哲也

・理事会からの推薦による理事選任候補者（細則第22条第7項関連）

議案 4-17 山田 和孝

議案 4-18 藤谷 徳之助

議案 4-19 竹内 綾子

議案 4-20 榎本 剛

議案5：第37期名誉会員の推薦について

名誉会員推薦委員会委員長の中島理事長から、4名の候補者及び推薦理由の説明があった。

(2) 質疑応答

なし。

6. 採択

議案1, 2, 3, 4, 5について、採決の結果、以下のように賛成多数で承認された。

なお、有効総会参加票1,669票のうち、理事会案賛成1,136票、議案別意思表示28票、議長委任503票、個人会員委任2票で、議長委任票及び個人会員委任票は全て理事会案に賛成であった。

議案 1 : 賛成 1,669, 反対 0, 保留 0

議案 2 : 賛成 1,668, 反対 0, 保留 1

議案 3 : 賛成 1,668, 反対 0, 保留 1

議案 4-1 : 賛成 1,667, 反対 1, 保留 1

議案 4-2 : 賛成 1,667, 反対 0, 保留 2

議案 4-3 : 賛成 1,665, 反対 2, 保留 2

議案 4-4 : 賛成 1,665, 反対 2, 保留 2

議案 4-5 : 賛成 1,666, 反対 2, 保留 1

議案 4-6 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-7 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-8 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-9 : 賛成 1,667, 反対 0, 保留 2

議案 4-10 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-11 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-12 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-13 : 賛成 1,665, 反対 1, 保留 3

議案 4-14 : 賛成 1,667, 反対 1, 保留 1

議案 4-15 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 4-16 : 賛成 1,667, 反対 0, 保留 2

議案 4-17 : 賛成 1,664, 反対 3, 保留 2

議案 4-18 : 賛成 1,660, 反対 5, 保留 4

議案 4-19 : 賛成 1,663, 反対 3, 保留 3

議案 4-20 : 賛成 1,666, 反対 1, 保留 2

議案 5 : 賛成 1,667, 反対 0, 保留 2

7. 2014年度総会報告事項

(1) 内容説明

報告1：2014年度事業計画

経田理事から、従来事業に加えて、一般向け啓発図書の刊行、創設した新賞の表彰、会員向けサービス機能を有する学会サーバの整備を進めることが説明された。

報告2：2014年度収支予算

平井理事から、受取会費と気象集誌掲載料の収益減と、新賞の副賞であるメダルの作成費用、気象集誌特別号のJ-Stageへの登載、地球環境問題関連書籍の書店印刷費用などの支出増を含む収支予算について説明があった。

(2) 質疑応答

なし。

8. 議事録署名人の指名

議事録署名人に美山 透会員（海洋研究開発機構）と筆保弘徳会員（横浜国立大学）を指名したところ、異議なく承認された。

9. 議長解任

木村議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

10. 閉会

経田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成26年6月12日

総会議長 木 村 富士男

出席者代表 美 山 透

出席者代表 筆 保 弘 徳